

地域材製品利用モデル 開発推進事業に選定

宮坂木材産業

宮坂木材産業（和歌山市、宮坂雅博社長）が取り組んでいる、間伐材木粉を使った木質樹脂のマスターペレット開発が、活木活木（いきいき）森ネットワークの10年度地域材製品利用モデル開発推進事業に選定された。同社では同事業の助成金と特殊ポリマーを供給する出光興産の支援で事業化を目指している。

出成型方式で木質ペレットと汎用樹脂を混合させた木質製品を開発してきた。しかし従来製造方法では、流動性、拡散性、分散性、郷土、臭いなどの問題点が指摘されていた。そうしたなか、出光興産の特殊ポリマーと出合い、問題解決のめどが立った。この木質樹脂マスターペレットの製法等に関し、サンキヨー化成と（和歌山県海南市）共同で特許出

願も行った。

原料木粉は、和歌山県森連の御坊事業所に新設された間伐材を原料とした木粉製造工場が供給。木粉品質管理がしっかりとしており、数十ミクロンの粒度ではらつきが小さく、含水率も4%前後で安定している。

同社は、高充填マスターペレット（木粉率が質量で最高90%）として製造することで応用範囲が広がり、樹脂を加えて希釈することでカスタムグレードの木質樹脂を作ることできるとする。「当社のような中小企業が出光興産の評価を得たことは大きな自信になった。事業化をぜひ確立したい」と話す。